

タイにおける津波とその被害

日本・タイ合同津波調査団

発表要旨

2004年12月26日午前7時58分49秒（日本時間同日午前9時58分49秒）、20世紀以降で第4番目の規模を持ったM=9.0の地震が北スマトラの西岸沖で発生した。インド洋でのM \geq 9.0の地震は少なくともここ200年間で初めてである。それに伴って発生した津波は、20世紀以降で第3番目の規模で、波源に近いインドネシアのBanda Acehをはじめ、波源から約500km離れたタイ南部のKhao LakやPhuket島の居住区・市街地などを襲い、大被害を与えた。この地震と津波による死者・行方不明者数は1月31日現在で各々約160,000人と142,100人である。

本津波はその規模から推して今後の津波の被害想定や減災対策に貴重な資料を提供し得るものである。非常に大きな犠牲を払って得るものであるから、本津波の残したものを確実に受け止め、後世に役立てることが我々の責務である。

本発表会では、津波被災後5日目の2004年12月30日から2005年1月3日まで現地調査を行ったタイ南部のKhao LakとPhuket島における津波とその被害の実態を報告する。また、被害想定や減災対策からみた課題について言及し、提言も行う。